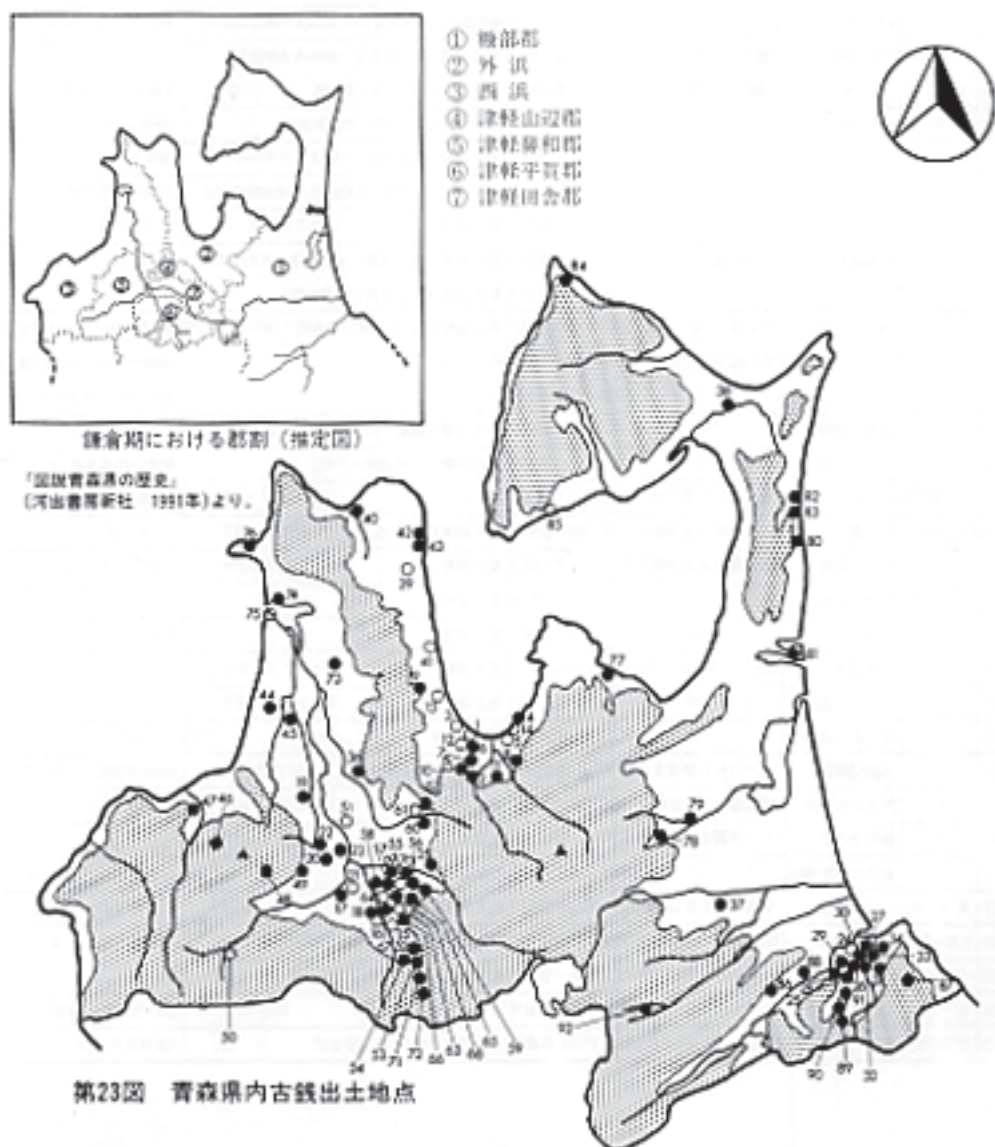


## 第 章 青森県内の古銭

### 第 1 節 県内出土古銭の概要

青森県における備蓄銭の研究は、成田末五郎氏らの業績により、古くから行われてきている。昭和 13 年に成田氏は『青森県郷土誌料集』に「津軽地方発掘古銭の研究」を発表し、27 箇所の出土例を紹介している。その後、昭和 30 年代を中心とした時期には、弘前市・南津軽郡を中心とした内陸部と日本海・陸奥湾の海岸線沿いに多数の出土例が報告されている。しかし、近年は古銭に関する報告が減少しているのが現状である。そこで、資料提起という意味で、今回の 4 箇所にとつた出土古銭の報告を機に、県内の古銭出土状況をまとめてみることにした。



第11表 古銭出土記載文献一覧

番号	市町村名	遺 跡 名	報告書刊行委員会・著者名	報告書刊行年度	出 土 古 銭 名	備 考
1	青森市	(千刈地区)	成田 末五郎	S13	開元通寶他614枚 第12表参照	木製容器の中より出土『青森県郷土誌料集』2
2	"	(高用地区)	青森市教育委員会	S32	開元通寶2・紹聖元寶1・洪武通寶1・永樂通寶1	人骨と共伴『青森市の歴史』
3	"	(油川地区)	"	S33	開元通寶他958枚 第12表参照	『日本考古学辞典』
4	"	大浦遺跡		S47	元祐通寶	
5	"	(原別地区)	小笠原 二郎・葛西 励	S47・H3	五銖他4592枚 第12表参照	『原別小笠原家に関する一考察』
6	"	近野遺跡	青森県教育委員会	S49	寛永通寶1	溝状遺構より出土
7	"	細越遺跡	"	S54	熙寧元寶1・洪武通寶1	
8	"	蛭沢遺跡	青森市教育委員会	"	寛永通寶1	
9	"	尻八館遺跡	青森県立郷土館	S56	和同開珎他193枚 第12表参照	土壌より99枚一括出土
10	"	朝日山道跡	青森県教育委員会	S59	治平元寶1・寛永通寶1・不明1	住居跡より1枚出土
11	"	構内城跡	青森市教育委員会	S62	至道元寶1・元豐通寶1・不明9	
12	"	(新城地区)	"	H3	開元通寶他8,160枚 第12表参照	曲げ物より出土
13	"	(奥内地区)	"	"	和同開珎・神功開寶他10,432枚 第12表参照	甕より出土
14	"	(野内地区)	葛西 励	"	開元通寶・軋封泉寶他3,000～5,000枚	
15	弘前市	(乳井地区)	成田 末五郎	S33	五銖他5,464枚 第12表参照	木箱より比土『東奥文化』11
16	"	(石川地区)	"	S36	開元通寶他1,752枚 第12表参照	『陸奥史談』31
17	"	弘前城跡	弘前市教育委員会	S52～57	元祐通寶1・寛永通寶4・不明1	
18	"	堀越城跡	"	S53	元祐通寶2・洪武通寶1・永樂通寶1・寛永通寶5・不明3	人骨と一部共伴
19	"	小友遺跡	"	S55	寛永通寶2	
20	"	独狐遺跡	青森県教育委員会	S61	開元通寶1・祥符通寶1・太平通寶1・至和元寶1 元豐通寶2・政和通寶1・淳熙元寶1	
21	"	境関館遺跡	"	S62	開元通寶他683枚 第12表参照	竪穴遺構28・土壌26・井戸跡376(363枚一括出土)・かまど遺構9溝跡3・柱穴37・堀跡40枚出土
22	"	茶毘館遺跡	"	S63	治平元寶1・熙寧元寶2・不明1	溝状遺構より1枚出土
23	"	中崎館遺跡	"	H1	景祐元寶1・元豐通寶2・不明2	柱穴より2・住居跡より1・井戸跡より1枚出土
24	八戸市	根城跡	八戸市教育委員会	S55～H2	開元通寶他3,027枚 第12表参照	
25	"	鴨平(1)遺跡	青森県教育委員会	S58	寛永通寶2	
26	"	長者森遺跡	"	"	寛永通寶2	
27	"	鵜窪遺跡	"	S59	寛永通寶7	
28	"	葦窪遺跡	"	"	寛永通寶5・不明1	
29	"	白山平(2)遺跡	"	"	寛永通寶7	
30	"	牛ヶ沢(3)遺跡	"	"	寛永通寶5	
31	"	赤御堂遺跡	八戸市教育委員会	S63	至道元寶1・洪武通寶1・寛永通寶22・鉄銭2	墓場より22枚出土
32	"	弥次郎窪遺跡	青森県教育委員会	H1	寛永通寶3	
33	"	田面木遺跡	八戸市教育委員会	H2	寛永通寶1	
34	"	新井田古館遺跡	"	"	皇宋通寶1	
35	黒石市	一ノ渡遺跡	青森県教育委員会	S59	寛永通寶10	
36	五所川原市	観音林遺跡	五所川原市教育委員会	H1	寛永通寶11	
37	十和田市	切田前谷地遺跡	十和田市教育委員会	S59	熙寧元寶1・宣徳通寶1・不明1	
38	むつ市	最花南遺跡	むつ市教育委員会	S58	不明1	溝状遺構より出土
39	蟹田町	(南沢地区)	成田 末五郎	S38	半両他2,188枚 第12表参照	『東奥文化』24

番号	市町村名	遺 跡 名	報告書刊行委員会・著者名	報告書刊行年度	出 土 古 銭 名	備 考
40	今別町	山崎遺跡	青森県教育委員会	S57	寛永通寶2	
41	蓬田村	蓬田大館遺跡	櫻井清彦・菊地徹夫	S62	開元通寶他800枚	曲げ物より出土
42	平館村	今津遺跡	青森県教育委員会	S61	寛永通寶1	
43	〃	間沢遺跡	〃	S61	寛永通寶3	
44	木造町	亀ヶ岡遺跡	〃	S49	寛永通寶2	
45	〃	石神神社遺跡	〃	S51	寛永通寶1・不明1	
46	鯹ヶ沢町	大野平過跡	岩木山刊行会	S43	開元通寶他290枚 第12表参照	マウンドより出土『岩木山』
47	〃	種里城跡	鯹ヶ沢町教育委員会	H1	不明7	
48	岩木町	岩木山神社元宮址	岩木山刊行会	S43	寛永通寶1	『岩木山』
49	〃	荒神山遺跡	岩木町教育委員会	S56	開元通寶1・太平通寶2・淳化元寶・咸平元寶1・天聖元寶1・景祐元寶2・皇宋元寶6・治平元寶1・熙寧元寶1・元豐通寶5・元祐通寶2・聖宋元寶3・政和通寶2・洪武通寶2・永樂通寶9	マウンドより出土
50	西目屋村	(砂子瀬地区)	成田 末五郎	S13	開元通寶他1,027枚 第12表参照	茶釜の蓋と共件『青森県郷土誌料集』2
51	藤崎町	(岡本地区)	八幡 一郎	S43	開元通寶他4,421枚 第12表参照	舊より出土『新版 考古学講座』1
52	大鰐町	砂沢平遺跡	青森県教育委員会	S55	嘉祐通寶1・元豐通寶1・寛永通寶5・不明1	住居跡より1枚出土
53	〃	唐牛城跡	大鰐町教育委員会	S61	開元通寶2・景德元寶1・祥符元寶1・天聖元寶2・皇宋通寶1・熙寧元寶1・元豐通寶1・紹聖元寶1・大觀通寶2・慶元通寶1・洪武通寶2・永樂通寶1・不明9	住居跡より16・柱穴より1枚出土
54	〃	鶴ヶ鼻遺跡	青森県教育委員会	H1	寛永通寶7	
55	尾上町	(猿賀地区)	八木沢誠次・工藤 正	S36	和同開珎他10,507枚 第12表参照	『猿賀出土古銭について』
1	〃	高木遺跡	尾上町教育委員会	S56	寛永通寶4	
57	〃	五輪野遺跡	〃	S58	寛永通寶1	
58	〃	八幡崎遺跡(1)	〃	S63	寛永通寶2	
59	〃	李平下安原遺跡	青森県教育委員会	S63	開元通寶2・天聖元寶1・熙寧元寶1・元祐通寶1・寛永通寶3	
68	浪岡町	杉の沢遺跡	〃	S54	景德元寶1・熙寧元寶1・皇宋通寶1・洪武通寶1・永樂通寶2・寛永通寶8・無文1・不明3	柱穴より出土
61	〃	浪岡城跡	浪岡町教育委員会	S55～H1	開元通寶他10,252枚 第12表参照	昭和59年に5,971枚の一括出土
62	〃	羽黒平遺跡	〃	S55	寛永通寶1	
63	平賀町	(柏木地区)	成田 末五郎	S13	開元通寶他799枚 第12表参照	『青森県郷土誌料集』2
64	〃	(館山地区)	工藤 正	S43	五銖他5,612枚 第12表参照	曲げ物より出土『平賀町館山出土古銭』
65	〃	富山遺跡	青森県教育委員会	S49	天禧通寶・元豐通寶・大觀通寶・洪武通寶・永樂通寶・宣徳通寶等13	
66	〃	鳥海山遺跡	〃	S52	嘉祐通寶1・治平元寶1・寛永通寶1	
67	〃	五輪堂遺跡	青森県教育委員会 平賀町教育委員会	S55S58	天聖元寶4・嘉祐通寶4・至道元寶1・熙寧元寶2・元祐通寶4・聖宋元寶・皇宋通寶2・洪武通寶3・永樂通寶4・不明7	
68	〃	大光寺新城跡遺跡	〃	H1・2	開元通寶他219枚 第12表参照	
69	田舎館村	(八反田地区)	工藤 正	S36	開元通寶他110枚 第12表参照	『館城文化』3
70	〃	垂柳遺跡	青森県教育委員会	S60	開元通寶2・熙寧元寶1・元祐通寶1・永樂通寶1・寛永通寶19・文久通寶1・鈇銭1・不明1	
71	碓ヶ関村	古館遺跡	〃	S55	元豐通寶1・寛永通寶2・不明1	
72	〃	永野遺跡	〃	〃	洪武通寶1・寛永通寶5	
73	中里町	中里城跡	中里町教育委員会	H1・2	開元通寶2・景祐元寶1・嘉祐通寶1・元豐通寶1・洪武通寶1・寛永通寶3・不明2	
74	市浦村	二ツ沼遺跡	桜井清彦	S28・29	天聖元寶・永樂通寶	
75	〃	(十三地区)	裕 光	S37	五銖他23,442枚 第12表参照	木箱より出土『東奥文化』21

番号	市町村名	遺 跡 名	報告書刊行委員会・著者名	報告書刊行年度	出 土 古 銭 名	備 考
76	小泊村	弁天島遺跡	小泊村教育委員会	S60	祥符元寶1・治平元寶1	
77	野辺地町	槻ノ木遺跡	青森県教育委員会	S58	寛永通寶4	
78	七戸町	山館遺跡（経塚）	七戸町教育委員会	S53	寛永通寶1	
79	〃	矢館跡	〃	H1	皇宋通寶1・洪武通寶2・寛永通寶1・無文2・不明18	土壌より20枚出土
80	六ヶ所村	大穴洞窟	青森県教育委員会	S48	永樂通寶・寛永通寶	
81	〃	発茶沢遺跡	〃	S57・61	寛永通寶28・不明1	
82	東通村	浜通遺跡	〃	S57・59	淳化元寶3・祥符通寶2・祥符元寶1・天禧通寶2 熙寧元寶1・元豐通寶4・政和通寶3・洪武通寶1 永樂通寶59・無文11・不明60	墓墳より98・柱穴より15枚出土
83	〃	前坂下（13）遺跡	〃	S58	寛永通寶1・不明2	
84	風間浦村	（折戸坂地区）	堺 正義・奈良 仁 熊谷正之・橘 善光	S53	開元通寶4・太平通寶2・淳化元寶1・至道元寶1 景德元寶1・祥符元寶1・天禧通寶1・天聖元寶1 景祐元寶1・皇宋通寶5・至和元寶1・治平元寶1 熙寧元寶3・元豐通寶8・元祐通寶3・紹聖元寶1 大觀通寶1・政和通寶4・嘉定通寶1・景定通寶1	
85	脇野沢村	（小沢地区）	奈良 仁	S51	開元通寶他5，205枚 第12表参照	『うそり 9』
86	名川町	剣吉荒町遺跡	青森県立郷土館	S63	永樂通寶1・不明1	
87	階上町	志民（2）遺跡	青森県教育委員会	S56	寛永通寶16・不明2	墓墳より3枚出土
88	福地村	雷遺跡	〃	H2	寛永通寶2・不明1	
89	南郷村	石ノ窪遺跡	〃	S57	寛永通寶1	
90	〃	馬場瀬（1）遺跡	〃	S57	寛永通寶1	
91	〃	馬場瀬（2）遺跡	〃	S57	政和通寶1・寛永通寶6・鉄銭13	
92	新郷村	（戸来地区）	鈴木 克彦	S59	開元通寶他396枚 第12表参照	

第12表 県内出土古銭一覧表(1)

中 国	鋳造国	初鋳年	千 刈	油 川	原 別	尻八館	新 城	奥 内	乳 井	石 川	大野平	境岡館	根城跡	南 沢	砂子瀬	岡 本	猿 賀	浪岡城跡	柏 木	館山	大光寺	八反田	十 三	小 沢	戸 来
半 両		秦													1		1								
五 銖	漢	B. C. 118																							
貨 泉	新 唐	A. D. 14			3			2	4											2			3		
開元通寶	唐	621	52	84	398	6	235	939	466	75	16	49	48	143	38	227	922	41 (367)	86	96	8	6	1, 599	315	20
乾元重寶	唐	760	2	2	18	1	8	54	21	3	1		2	8	1	10	41	29 (23)	3	20	1		70	11	
天漢元寶	前蜀	917			1																				
光天元寶	唐	918			1		1	1				1					1	1 (1)							
乾德元寶	宋	919	2		1				1					1			1	1 (1)		2			9		
咸康元寶	唐	925															1			1					
漢元通寶	後漢	948																2					1		
周通元寶	後周	955		1	1		1	5	5							3	4			5			4		
唐國通寶	南唐	959	2	2	2	1		5	8					5	1	4	11	9 (6)	2	7			16	2	
大唐通寶	唐	960															1								
宋通元寶	宋	960	3	3	20		1	38	12	6	1	4	3	11		12	30	16 (15)	1	28	2		51	11	
太平通寶	唐	976	6	12	36		15	117	58	5	1	2	5	13	2	24	90	56 (39)	3	50	3		178	28	1
淳化元寶	宋	990	4	6	31	2	5	88	50	11	1	2	4	19	4	20	72	43 (33)	4	70	1	1	147	33	3
至道元寶	宋	995	12	16	74	2	37	210	102	16	7	10	21	35	4	34	170	95 (67)	15	81		2	252	76	2
咸平元寶	宋	998	6	9	59	6	29	177	99	18	3	3	10	27	15	43	194	97 (71)	4	83	2	4	196	58	3
景德元寶	宋	1, 004	13	19	94	2	21	147	143	33	4	7	13	36	24	73	203	125 (93)	30	130	2	4	376	88	2
景德通寶	宋	〃																1							
祥符元寶	宋	1, 008	20	24	117	1	172	291	141	26	6	17	17	44	19	72	289	99 (107)	32	135	3	8	403	126	6
祥符通寶	宋	〃	13	17	73	3	158	118	66	11	4	5	17	20	12	34	152	126 (52)		66	2		261	62	4
天禧通寶	宋	1, 017	13	20	95		108	237	117	32	2	19	11	51	13	61	237	159 (91)	11	112	2		333	86	8
天聖元寶	宋	1, 023	38	31	208	5	92	558	279	51	17	20	23	61	33	114	516	79 (225)	47	254	2	6	802	214	5
天聖通寶	宋	〃																14							
明道元寶	宋	1, 032	1	5	21		2	44	12	7	1		2	8	3	6	46	32 (28)		29	1		117	65	1
景祐元寶	宋	1, 034	12	11	67		23	191	86	9	4	10	6	26	15	33	158	84 (71)	12	104		2	218	50	4
皇宋通寶	宋	1, 037	69	95	650	11	90	1, 369	644	126	35	48	56	218	62	354	1, 440	03 (546)	110	724	9	4	2, 302	490	17
至和元寶	宋	1, 054	8	9	39		11	114	59	1	2	5	7	17	5	29	104	58 (45)	6	65		4	202	38	5
至和通寶	宋	〃	1	2	12			1	12	15	6	2		7	2	13	37	12 (11)		22			90	18	
嘉祐元寶	宋	1, 056	13	13	143	1	23	143	59	11	6	6		28	2	36	133	65 (51)	4	70	1	2	230	63	4
嘉祐通寶	宋	〃	14	20	108	3	28	188	136	23	4	16	6	43	11	62	247	31 (107)	17	138	2	2	382	72	2
治平元寶	宋	1, 064	12		88	2	19	180	113	28	4	10	7	23	9	66	175	109 (79)	3	111	1	2	397	84	5
治平通寶	宋	〃	2	20	10		8	44	21	5	4	3	2	19	1	9	28	22 (18)	7	21			38	4	
咸雍通寶	遼	1, 065		90												1									
熙寧元寶	宋	1, 068	53		471	9	73	1, 034	449	122	15	76	40	156	69	268	1, 031	25 (407)	74	559	5	5	1, 805	341	12
熙寧通寶	宋	〃																1							
元豐通寶	宋	1, 078	84	117	544	11	146	1, 274	625	117	36	76	69	201	85	376	1, 276	27 (500)	119	623	12	4	1, 919	494	16
大安通寶	遼	1, 085																					1		
元祐通寶	宋	1, 086	45	86	398	6	106	941	481	96	36	61	36	146	72	292	1, 005	29 (401)	53	536	9	13	1, 465	384	12
紹聖元寶	宋	1, 094	23	45	211	3	46	376	240	51	19	24	15	64	33	130	437	58 (194)	35	238	2		796	153	5
紹聖通寶	宋	〃						1	1									3 (1)		1					
元符通寶	宋	1, 098	15	13	52		38	134	71	19	4	8	6	31	10	49	197	99 (73)	16	89	2	3	249	57	
聖宋元寶	宋	1, 101	23	34	186	7	43	425	202	38	11	20	6	70	27	95	362	53 (200)	22	206	3	3	708	187	7
崇寧重寶	宋	1, 104															1								
大觀通寶	宋	1, 107	6	7	42	3	12	128	51	10	1	5	10	24	12	21	127	67 (50)	8	73	2	2	216	42	3
政和通寶	宋	1, 111	21	33	188	3	49	415	201	34	7	20	21	61	23	111	425	36 (179)	31	214	4	3	711	113	4
宣和通寶	宋	1, 119	1	2	12		6	43	14	1	1	1	7	7	3	10	26	28 (22)	4	14			81	13	
建炎通寶	南宋	1, 127	1	1	1			2	2							1	3	1 (1)		2			6	1	
紹興元寶	宋	1, 131			1			3	1	1							3	2 (1)		5		1	16		
紹興通寶	宋	〃	1				1																1		
正隆元寶	金	1, 158	2	1	6		5	16	10	1			2	6	2	2	8	12 (7)		4	1		35	4	1
天盛元寶	西夏	〃								1															

県内出土古銭一覽表(2)

	千	刈	油	川	原	別	尻八館	新	城	奥	内	乳	井	石	川	大野平	境岡館	根城跡	南	沢	砂子瀬	岡本	猿賀	浪岡城跡	柏木	館山	大光寺	八反田	十三	小	沢	戸	来		
淳熙元寶	南宋	1174	5		3	26	1			56	41		2	3	1					7	14	62	29 (21)	3	32			101	23		3				
大定通寶	金	1178								2	2	1	1						3	1	2	3	1	□ 6 (□ 4)					27	1					
紹熙元寶	南宋	1190			7	7	1	4		14	14								1	1	2		17	11 (□ 7)		12			29	6					
慶元通寶	"	1195	4			15				14	13	1							1	4	1	4	27	13 (□ 9)	2	15		1	29	7					
嘉泰通寶	"	1201	2	5		7				15	10								1	1	4	8	10 (□ 8)		12			21	2						
開禧通寶	金	1204																		1															
嘉定通寶	南宋	1205	1	2		6				10	6									1	7	□ 4 (□ 4)		5	1	10									
嘉定通寶	"	1208	2	8		20	2			58	27	2	1	2					2	3	1	10	55	12 (11)	1	29	1	66	12	1					
大宋元寶	"	1225								1	1								1	1			□ 3 (□ 2)		2			2	1						
紹定通寶	"	1228	2	1		12				16	11	2							2	1	3	16	□ 8 (□ 7)		12			83	5						
端平元寶	"	1234								1	1																	1	2						
嘉熙通寶	"	1237								5	2									1			2	□ 6 (□ 6)		1	1	5	4						
淳祐元寶	"	1241	1	3		6				9	11	1							5	8	1	5	17	18 (□ 9)	2	8		29	8						
皇宋元寶	"	1253	1			3				4	3								4			1	5	□ 9 (□ 4)		10		21	4	1					
開禧通寶	"	1259								9									1	1			1												
景定元寶	"	1260			3	1	1	1		15	8								1	2	4	4	17	12 (□ 9)	2	15		24	4	1					
咸淳元寶	"	1265	1	3		7	1	1		17	7								2	2	1	21	□ 7 (□ 5)	3	4			86	5						
大元通寶	元	1309																																	
至大通寶	"	1310			1	1				2	1								2	1		3	19 (□ 8)			1		29	3						
至正通寶	"	1351																																	
天定通寶	"	1360																																	
大中通寶	明	1361																		3	1			□ 7 (□ 4)				21							
洪武通寶	"	1368	4						13	1, 330						114			275	203	127	298		1, 193 (533)			16	10	2, 831	302		70			
永樂通寶	"	1408			1				12		64					134			458	183	189	240		606 (483)			14	9	1, 805	498		1			
宣德通寶	"	1433																	5	7				3			1								
朝鮮																																			
高麗	1, 097																						1			1									
海東通寶	"	"											1													1									
東國通寶	"	"																								1									
東國重寶	"	"																																	
朝鮮通寶	李	1, 423																																	
琉球																																			
琉球	1, 454																																		
世高通寶	"	1, 461																	1		1														
安南																																			
安南	984												1										1			1									
紹豐通寶	"	1, 341																																	
紹平通寶	"	1, 434																																	
大和通寶	"	1, 443																																	
光順通寶	"	1, 460																																	
洪德通寶	"	1, 470																																	
日本																																			
飛鳥	708																						1												
神功開寶	奈良	765																																	
寬永通寶	江戸	1, 636																																	
仙台通寶	"	1, 784																																	
文久通寶	"	1, 863																																	
無文銭																																			
判読不能																																			
その他																																			
合計			614	958	4, 592	193	8, 182	10, 432	10, 432	5, 464	1, 753	290	683	3, 027	2, 188	1, 027	4, 421	10, 507		10, 414 (5, 971)	799	5, 612	219	109	23, 442	5, 205	396								



## 第2節 小 結

古銭の出土地分布状況を見ると、岩木川・馬淵川といった河川流域と海岸線沿いの大きく二通りに分けられる。しかし、馬淵川流域からの出土古銭の大半は寛永通寶であり、渡来銭の出土例は少ない。さらに、500枚以上の一括出土例は報告されていない。このことは、当時の津軽と南部の貨幣流通及び貨幣に対する意識の違い、また、備蓄という行為に地域差があることを推察することができる。何をもって備蓄銭とするかは、定義づけがなされていない。単純に多量の一括出土を備蓄銭とするのであれば、備蓄銭の多くは、緡の状態直接土中に、または容器に封入し埋納されるのが通例である。容器としては、甕・曲げ物・木箱等が実例として知られている。

便宜上、500枚以上の一括出土例を挙げると、青森市千刈・同市油川・同市原別・同市新城・同市奥内・弘前市乳井・同市石川・蟹田町南沢・西目屋村砂子瀬・藤崎町岡本・尾上町猿賀・浪岡町浪岡城跡・平賀町柏木・同町館山・市浦村十三・脇野沢小沢の16箇所が知られている。これら16箇所について、第13表を用いて概観していきたい。

16箇所の下限銭貨を見ると、1. 咸淳元寶（初鑄1265年）、2. 至大通寶（初鑄1310年）、3. 洪武通寶（初鑄1368年）、4. 永樂通寶（初鑄1408年）、5. 世高通寶（初鑄1461年）、6. 洪徳通寶（初鑄1470年）の6種認められる。しかし、至大銭は輸入量は少量であると思われ、咸淳銭で終るものでも偶然含まれなかったものもあると考えられるので、本稿では一つにまとめ1期とし、永樂銭までを2期、それ以後を3期と分類した。ただし、鑄造国別比率に関しては、無文銭・不明銭を外した比率である。

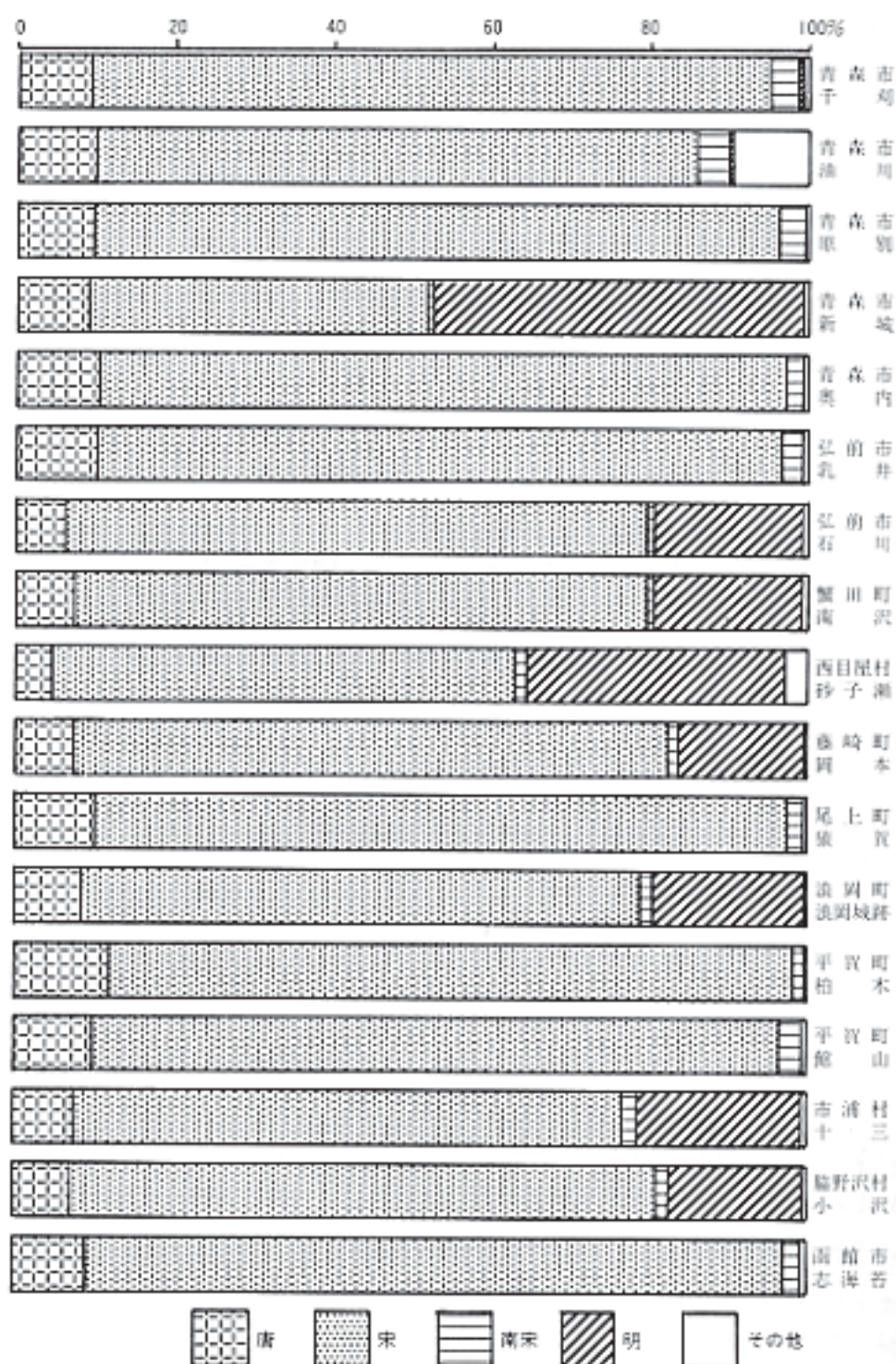
1期には、青森市原別・同市奥内・弘前市乳井・尾上町猿賀・平賀町柏木・同町館山の6箇所が該当する。埋納時期は13世紀末から14世紀後半までの時期と考えられる。この時期は、かなりの数の荘園が現物年貢から代銭納化する時期である。鑄造国別比率を見ると、唐9～11%、宋87%前後、南宋2～3%にすべて収まる。比率から宋銭が貨幣流通の主体であったことがわかる。館山に関しては、143貫余りの代銭納の記録が残されており、津軽でも盛んな貨幣流通が行われていたことを示している。埋納容器は、奥内が信楽と思われる甕、乳井が木箱、館山が曲げ物である。原別は板片が残っていたそうであるが、猿賀・柏木と共に詳細は不明である。

2期には、青森市千刈・同市油川・弘前市石川・蟹田町南沢・藤崎町岡本・浪岡町浪岡城跡・市浦村十三・脇野沢小沢の8箇所が該当する。埋納時期は14世紀末から15世紀中頃までの時期と考えられる。この時期は、日明貿易により洪武銭・永樂銭が流通し始め、商業活動が盛んになった時期である。鑄造国別比率を見ると、千刈・油川を除き、唐6～8%、宋68～75%、南宋1～2%、明16～21%である。比率から貨幣流通の主体が、宋銭から明銭へ移り始めたと思

第13表 鑄造国別比率

	泰	漢	新	唐	前蜀	後漢	後周	南唐	宋	遼	南宋	西夏	金	元	明	高麗	李	安南	琉球	飛鳥	奈良	平安	下限錢貨（初鑄年）
青森市 千 刈				8 . 79 ( 54 )	0 . 33 ( 2 )				86 . 48 ( 531 )		3 . 42 ( 21 )		0 . 33 ( 2 )		0 . 65 ( 4 )								洪武通寶 ( 1368年 )
〃 油 川				9 . 70 ( 86 )			0 . 11 ( 1 )	0 . 23 ( 2 )	75 . 42 ( 669 )	10 . 15 ( 90 )	4 . 06 ( 36 )		0 . 11 ( 1 )	0 . 11 ( 1 )	0 . 11 ( 1 )								永樂通寶 ( 1408年 )
〃 原 別		0 . 07 ( 3 )		9 . 20 ( 415 )	0 . 07 ( 3 )		0 . 02 ( 1 )		87 . 85 ( 3964 )		2 . 55 ( 115 )		0 . 13 ( 6 )	0 . 02 ( 1 )		0 . 02 ( 1 )							至大通寶 ( 1310年 )
〃 新 城				8 . 02 ( 243 )	0 . 03 ( 1 )		0 . 03 ( 1 )		44 . 95 ( 1362 )		0 . 40 ( 12 )		0 . 17 ( 5 )	0 . 03 ( 1 )	46 . 01 ( 1394 )		0 . 20 ( 6 )	0 . 13 ( 4 )	0 . 03 ( 1 )				洪徳通寶 ( 1470年 )
〃 奥 内		0 . 02 ( 2 )		9 . 63 ( 993 )	0 . 01 ( 1 )		0 . 05 ( 5 )	0 . 05 ( 5 )	87 . 62 ( 9037 )		2 . 41 ( 249 )		0 . 17 ( 18 )	0 . 02 ( 2 )					0 . 01 ( 1 )	0 . 01 ( 1 )			至大通寶 ( 1310年 )
弘前市 乳 井		0 . 08 ( 4 )	0 . 06 ( 3 )	9 . 32 ( 487 )	0 . 02 ( 1 )		0 . 10 ( 5 )	0 . 15 ( 8 )	86 . 99 ( 4547 )		3 . 02 ( 158 )		0 . 21 ( 11 )	0 . 02 ( 1 )		0 . 02 ( 1 )		0 . 02 ( 1 )					至大通寶 ( 1310年 )
〃 石 川				6 . 23 ( 78 )					72 . 87 ( 913 )		0 . 72 ( 9 )	0 . 08 ( 1 )	0 . 16 ( 2 )	0 . 08 ( 1 )	19 . 87 ( 249 )								永樂通寶 ( 1408年 )
蟹田町 南 沢	0 . 05 ( 1 )			7 . 36 ( 151 )	0 . 05 ( 1 )			0 . 24 ( 5 )	71 . 48 ( 1466 )		1 . 46 ( 30 )		0 . 34 ( 7 )	0 . 05 ( 1 )	18 . 97 ( 389 )								永樂通寶 ( 1408年 )
西目屋村 砂子瀬				3 . 95 ( 39 )					57 . 75 ( 570 )		2 . 03 ( 20 )		0 . 51 ( 5 )		32 . 84 ( 324 )		2 . 74 ( 27 )		0 . 10 ( 1 )				世高通寶 ( 1461年 )
藤崎町 岡 本				7 . 22 ( 237 )			0 . 09 ( 3 )	0 . 12 ( 4 )	74 . 54 ( 2447 )	0 . 03 ( 1 )	1 . 46 ( 48 )		0 . 15 ( 5 )		16 . 39 ( 538 )								永樂通寶 ( 1408年 )
尾上町 猿 賀	0 . 01 ( 1 )	0 . 07 ( 7 )	0 . 01 ( 1 )	9 . 19 ( 963 )	0 . 02 ( 2 )		0 . 04 ( 4 )	0 . 11 ( 12 )	87 . 90 ( 9208 )		2 . 50 ( 262 )		0 . 09 ( 9 )	0 . 03 ( 3 )		0 . 01 ( 1 )		0 . 01 ( 1 )					至大通寶 ( 1310年 )
浪岡町 浜岡城跡				7 . 33 ( 390 )	0 . 04 ( 2 )			0 . 11 ( 6 )	71 . 02 ( 3776 )		1 . 96 ( 104 )		0 . 21 ( 11 )	0 . 15 ( 8 )	19 . 18 ( 1020 )								永樂通寶 ( 1408年 )
平賀町 柏 木				11 . 53 ( 89 )				0 . 26 ( 2 )	86 . 53 ( 668 )		1 . 68 ( 13 )												咸淳元寶 ( 1265年 )
〃 館 山		0 . 04 ( 2 )		9 . 28 ( 516 )	0 . 05 ( 3 )		0 . 09 ( 5 )	0 . 13 ( 7 )	87 . 14 ( 4846 )		3 . 15 ( 175 )		0 . 07 ( 4 )			0 . 04 ( 2 )		0 . 02 ( 1 )					咸淳元寶 ( 1265年 )
市浦村 十 三		0 . 01 ( 3 )		7 . 65 ( 1669 )	0 . 04 ( 9 )	0 . 005 ( 1 )	0 . 02 ( 4 )	0 . 07 ( 16 )	68 . 43 ( 14925 )	0 . 005 ( 1 )	1 . 97 ( 430 )		0 . 28 ( 62 )	0 . 14 ( 31 )	21 . 35 ( 4657 )	0 . 005 ( 1 )		0 . 005 ( 1 )					永樂通寶 ( 1408年 )
脇野沢村 小 沢				6 . 99 ( 326 )	0 . 04 ( 2 )				73 . 97 ( 450 )		1 . 69 ( 79 )		0 . 11 ( 5 )	0 . 06 ( 3 )	17 . 15 ( 800 )								永樂通寶 ( 1408年 )
函館市 志海苔	0 . 002 ( 7 )	0 . 01 ( 39 )	0 . 002 ( 6 )	8 . 46 ( 30596 )	0 . 04 ( 140 )	0 . 004 ( 15 )	0 . 02 ( 87 )	0 . 56 ( 2037 )	87 . 99 ( 318130 )	0 . 001 ( 5 )	2 . 70 ( 9775 )	0 . 001 ( 3 )	0 . 14 ( 501 )	0 . 03 ( 113 )	0 . 004 ( 13 )	0 . 008 ( 31 )			0 . 0003 ( 1 )	0 . 001 ( 5 )	0 . 002 ( 9 )		洪武通寶 ( 1368年 )





第24図 主要鋳造国別比率

われる。ただし、千刈は洪武銭が4枚と、洪武銭が流通し始めた頃の埋納と考えられ、埋納時期は他よりも大分早いと推測される。そのため、比率は1期に類似した比率である。また、37万枚以上出土した函館市志海苔も同じ状態であり、比率も類似している。油川に関しては、永樂銭が1枚の出土であり、洪武銭がないことは、前後関係から考えると疑問が残り、遼銭である咸雍通寶の90枚の出土は、全国的にも例がない。このことから、油川に関しては不確実要素が強いとして考察から除いた。埋納容器は、千刈が木製の樽、岡本が甕、十三と脇野沢が木箱であり、石川・南沢・浪岡城跡が直接土中に埋納されたと思われる。油川は不明である。また、備蓄銭は緡の状態で見られることは前述したが、浪岡城跡では完全な緡の状態で見出されている。(註1) そのときの一緡の枚数は、100枚のものが最も多く、次いで99枚、101枚の順であった。一緡の枚数は、各時代異なっており、枚数を把握することで、ある程度の時代決定ができるものと思われる。

3期には、青森市新城・西目屋村砂子瀬が該当する。埋納時期は、15世紀末から16世紀中頃と思われる。この時期は明銭の多量輸入に伴い、私鑄銭の増大、撰銭の激増、関東を中心、とした永樂銭のみの使用が行われた時期である。鑄造国別比率を見ると、新城は宋44.9%、明46.0%であり、砂子瀬は宋57.7%、明32.8%である。宋銭の比率が落ち、明銭の比率が高くなる。新城に至っては、明銭が宋銭を上回っている。このことは、明銭が貨幣流通の主体になったことを物語っている。また、中国銭以外の李・琉球・安南銭の含有率が高くなる。室町幕府が明との貿易にとどまらず、隣接国との外交を始めたのが推察される。埋納容器は、新城が曲げ物、砂子瀬は不明である。

貨幣を備蓄するという行為は、ある特定の時期に限られて行われており、各時代ごとの備蓄銭の性格は、時代背景等により異なっているものと思われる。多量の一括出土例は、土木工事等による偶然の発見が大半であり、周辺の遺構確認、伴出遺物等の調査には及んでいない。

備蓄銭の性格及び埋納時期を把握するためには、銭種・枚数の分類だけにとどまらず、精銭・悪銭・私鑄銭の分類、一緡の枚数及び重量の調査、出土状況と周辺遺構の確認、城館・神社仏閣・集落・陸路・水路との相関関係、貨幣流通経路把握のための陶磁器類の分類、荘園の代銭納化等の年代背景把握のための文献等の調査などの幾つかの問題点を照合する必要があり、そこから何らかの備蓄銭のかたちが見えてくるものと思われる。(上野隆博)

註1『浪岡城跡Ⅷ』(浪岡町教育委員会 1986)

## ま と め

本書は、青森市内出土遺物調査報告書として、青森市新城・奥内・原別・野内各地区出土の古銭についてまとめたものである。ここで、各章ごとに記述してきた内容を要約すると以下のとおりである。

新城地区出土古銭は、青森市西部を流れる沖館川と新城川に挟まれた河岸段丘上、標高約20mの地点より曲げ物に入って出土した。出土枚数は8,182枚、銭種数は47種である。上限銭貨は開元通寶、下限銭貨は洪徳通寶である。明銭の比率が宋銭を上回っており、県内では、まれな例である。また、李・琉球・安南銭が含まれており、日明貿易とともに、隣接国との外交が行われていたことを推察できる。埋納時期は、15世紀末から16世紀前半と考えられる。この時期は、明銭の大量輸入とともに、粗悪な私鑄銭が多量に作られ、撰銭が盛んに行われた時期である。本古銭における永樂通寶の比率の低さは、撰銭によるものと考えることができる。

奥内地区出土古銭は、青森市北西部水田地帯に所在する神社付近より甕に入って出土したとのことである。出土枚数は10,432枚、銭種数は57種である。上限銭貨は五銖（後漢と隋と思われる）、下限銭貨は至大通寶である。皇朝十二銭である和同開珎・神功開寶が含まれており、和同銭は県内3例目、神功銭は県内初例と思われる。埋納時期は、14世紀中頃から15世紀にかけてと思われる。この時期は「津軽の大乱」と呼ばれる時期であり、本古銭との何らかの関係を推察できる。

原別地区出土古銭は、青森市東部を流れる原別川河口付近から出土した。出土枚数は、若干の散逸があるが、現存4,592枚であり、銭種数は55種である。上限銭貨は五銖（後漢と思われる）、下限銭貨は至大通寶である。古銭とともに、板切れが残っていたが詳細は不明である。埋納時期は、14世紀後半と思われる。

野内出土古銭は、原別川東方を流れる貴船川河口付近から出土した。正確な枚数は不明であるが、およそ3000から5000枚とのことであり、銭種数は46種である。上限銭貨は開元通寶、下限銭貨は宣徳通寶（明）である。埋納時期は、15世紀後半から16世紀前半と思われる。

原別・野内古銭とも、海岸線付近からの出土であり、海運の発展に伴っての備蓄と思われる。

今回、青森市内4箇所から出土した古銭については、前述のとおり、資料提起を目的として報告した。今後は、これらの分類結果を基礎資料とし、出土地点周辺の歴史的環境や文献資料等を加味して古銭の一括埋蔵の目的・時期などの不明項目を考察していきたいと考えている。

今回、本書を刊行することができたのも、発見者及び土地所有者をはじめ、玉稿をいただいた葛西励氏、さらに資料提供を快諾された古銭所蔵者の方々、さらには有益な御教示をいただいた研究者の方々と、多くの関係機関と各位の御協力と御指導の賜ものによるものと深く感謝を申し上げます。本書がいささかでも歴史研究のうえで一翼を担うことができれば担当者一同、望外の喜びであります。

(担当者一同)



## 参考文献

- 1938 年 成田 末五郎 「津軽地方発掘古銭の研究」『青森県郷土誌料集』2
- 1958 年 成田 末五郎 「乳井出土古銭について」『東奥文化』11
- 1958 年 中橋 掬泉編 『新撰古銭大鑑』
- 1961 年 成田 末五郎 「石川町出土古銭について」『陸奥史談』31
- 1961 年 工藤 正・八木沢 誠次 『猿賀出土古銭について』
- 1962 年 裕 光 「市浦村十三出土古銭調査」『東奥文化』21
- 1962 年 日本考古学協会編 『日本考古学辞典』
- 1963 年 成田 末五郎 「蟹田町南沢出土の古銭を訪ねて」『東奥文化』24
- 1967 年 矢島 恭介 「物資の交易と貨幣」『日本の考古学』7
- 1968 年 平賀町教育委員会 『平賀町館山出土古銭』
- 1968 年 八幡 一郎 「一括遺物」『新版 考古学講座』1
- 1971 年 日比野 丈夫 「古銭」『新版 考古学講座』9
- 1972 年 日本銀行調査局編 『図録日本の貨幣』1
- 1972 年 市立函館博物館 『函館志海苔古銭』
- 1972 年 奈良 仁 「脇野沢村小沢出土古銭の研究」『うそり』9
- 1976 年 奈良 仁 「中世の下北地方と蠣崎氏」『考古風土記』1
- 1979 年 堺 正義・熊谷 政之・奈良 仁・橘 善光 「風間浦村折戸坂の渡来銭について」『うそり』15
- 1981 年 青森県立郷土館 『尻八館調査報告書』
- 1981 年 佐々木 達夫 「日本海の陶磁貿易」『日本海文化』8
- 1981 年 沼舘 愛三 『津軽諸城の研究』
- 1982 年 青森県教育委員会 『青森県の中世城館』
- 1984 年 鈴木 克彦 「青森県南郷村女ヶ崎から出土した古銭」『考古風土記』9
- 1985 年 是光 吉基 「出土渡来銭の埋没年代」『考古学ジャーナル』249
- 1986 年 坂詰 秀一編 『考古学ライブラリー 出土渡来銭』
- 1986 年 坂詰 秀一 「出土渡来銭研究の視角」『日本考古学論集』5
- 1986 年 神木 哲男 「出土銭から見た日本の中世経済」『日本考古学論集』5
- 1986 年 浪岡町教育委員会 『浪岡城跡□』
- 1987 年 櫻井 清彦・菊地 徹夫編 『蓬田大館遺跡』
- 1987 年 青森県教育委員会 『境開館遺跡発掘調査報告書』
- 1990 年 小笠原 二郎 「原別小笠原家伝承に関する一考察」『原別百年のあゆみ』